

福山大学 工学部 平成30(2018)年度 自己点検・評価書

基準1. 使命・目的等

領域: 使命・目的、教育目的

2018年度

工学部

中長期計画	工学部の使命・目的は、工学の定義に基づき、「何故作るか」を熟慮できる教養と倫理観、「何が起こるか」が予測できる設計力、「どの様に対応するか」が推察できる理論的考察力、そして、やり遂げる力等、大学で教えるべき日本のものづくりを標榜し、我々にとって有意なものや環境をできるだけ無駄なく、安全に実現し、修復、再利用する学問の構築を目指す。その学部理念の下に、各学科は専門性を考慮した使命・目的を掲げて学生に学修の機会を与える。

2018年度

工学部

中点検項目	1-1. 大学、学部、学科、研究センター及び委員会等のそれぞれの使命・目的および教育目的を設定していますか。
点検項目	① その意味・内容は具体的かつ明確ですか。
現状説明	学則に工学部の目的は明記され、かつ、これに基づく行動目標を示す3ポリシーで明確にしている。
年度目標	3ポリシーを点検し、齟齬が無い場合は現状を維持する。
年度報告	自己点検を通して、理念・目的を確認した。
達成度	A
改善課題	
根拠資料	①第1回工学部教授会議事録
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	② 個性・特色を明示していますか。
現状説明	学部目的に教養の必要性を謳い、APにおいては工学の定義を明示する等、他の大学にない特徴と判断している。
年度目標	現状を維持する。
年度報告	現状を維持した
達成度	A
改善課題	
根拠資料	①大学案内 ②シラバス ②大学ホームページ
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	③ 社会の要請や背景の変化について検討していますか。
現状説明	平成28年度に外部評価を行い、社会の要請を傾聴し、それに基づき常に改善策を検討している。
年度目標	現状を維持する。

年度報告	現状を維持した。
達成度	A
改善課題	
根拠資料	①平成28年度外部評価報告書 ②第1回工学部教授会議事録
次年度の課題と改善の方策	

2018年度

工学部

中点検項目	1-2. 使命・目的および教育目的の反映
点検項目	① 使命・目的および教育目的に対し、教職員の理解と支持は得られていますか。
現状説明	年度計画策定、自己点検の実施に際し、合議し、理解と支持を得ている。
年度目標	現状を維持する。
年度報告	現状を維持した。
達成度	A
改善課題	
根拠資料	① 平成30(2018)年度第1回工学部教授会資料
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	② 学内外へ公表し周知していますか。
現状説明	福山大学工学部の使命は、学外に対してはHP、オープンキャンパス、出張講義で周知し、学内においては、新入生に訓示している。
年度目標	現状を維持する。
年度報告	現状を維持した
達成度	A
改善課題	
根拠資料	①大学HP ②オープンキャンパスプログラム ③学生便覧
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	③ 中長期的計画へ反映していますか。
現状説明	使命に基づいた施設整備計画等、中長期計画に反映させている。
年度目標	現状を維持する。
年度報告	現状を維持した。
達成度	A
改善課題	

根拠資料	①平成30年度予算要求書
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	④ 三つのポリシーへ反映していますか。
現状説明	使命に基づき、3ポリシーは制定されている。
年度目標	現状を維持するが、もし、使命に変更がある場合は、直ちに3ポリシーに反映させる。
年度報告	現状を維持した。
達成度	A
改善課題	
根拠資料	①大学HP ②2018年学生便覧
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	⑤ 教育研究組織の構成との整合性は取れていますか。
現状説明	教養教育実施機関と各学科の整合性が図られ、カリキュラムマップに反映されている。
年度目標	現状を維持する。
年度報告	現状を維持した。
達成度	A
改善課題	
根拠資料	①2018年度学生便覧
次年度の課題と改善の方策	

2018年度

工学部

基準2. 学生

領域：学生の受け入れ、学生の支援、学修環境、学生の意見等への対応

2018年度

工学部

中長期計画	学生の受け入れ状況として、4学科の内、建築学科は安定して定員充足し、情報工学科も平成30年度入試に於いて、定員を充足する見込みであるが、スマートシステム学科は30%台、機械システム工学科も平成30年度入試で減少した。慢性的な低迷にあえぐ電気系学科はまだしも、製造業が多く存在する備後地域で就職率も好調な中で、製造業の根幹を担う、機械系の志願者数入学者数が低下したことは不可解である。これを解明し適切な対策を練る。学生生活に関しては、きめ細かく学生の行動を把握し、意見に耳を傾ける姿勢を定着させる。 一方で、備後圏域において就職先が不安定である情報工学科の入学者数が増えたことでその受け入れ先を開拓、構築する。
-------	---

中点検項目	2-1. 学生の受入れ
点検項目	① 教育目的を踏まえたアドミッション・ポリシーの策定と学内外への周知を行っていますか。
現状説明	策定し、毎年見直しを行っている。また、学内では年度初めのオリエンテーション、学外へはHPやオープンキャンパス、出張講義で明示している。
年度目標	現状を維持する。
年度報告	現状を維持した。
達成度	A
改善課題	
根拠資料	①平成30(2018)年度第1回工学部教授会議事録 ②同教授会資料3 ③大学HP
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	② アドミッション・ポリシーに沿った学生を受け入れていることを検証し、学生受入れの改善に生かしていますか。
現状説明	学部が直接関与しての検証は行っていない。
年度目標	アドミッションポリシーに対するチェック、アクションを各学科で実践するように周知する。
年度報告	学科長等連絡会議で議論し、各学科で新入生のアンケートを行った。
達成度	A
改善課題	
根拠資料	①各学科の新入生アンケート
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	③ 入学生受入れ状況を昨年度及び今年度について検証し、その増減の原因を分析していますか。
現状説明	各学科で実施すると共に、学部全体に於いても年度初めの学部教授会で行っている。
年度目標	現状を維持する。
年度報告	現状を維持した。
達成度	A
改善課題	
根拠資料	①平成30(2018)年度第1回工学部教授会資料 ②H29年度自己点検報告書
次年度の課題と改善の方策	

点検項目	④ 入学定員に沿った適切な学生受入数を維持できていますか。出来ていない場合、どのような対策を実施していますか。
現状説明	建築学科、情報工学科では充足されたが、残り2学科が未達である。この場合は改善計画を立てている。
年度目標	達成学科は現状を維持すると共に、未達学科は受入数の維持に向けての継続的な活動を行う。
年度報告	達成学科は現状を維持し、未達学科において継続的な活動を行った。
達成度	B
改善課題	未達学科がある。
根拠資料	①定員管理報告書 ②高校に対する出張講義報告書 ③学長室ブログの工学部各学科に関する記事
次年度の課題と改善の方策	未達学科の達成努力を続ける。

2018年度

工学部

中点検項目	2-2. 学修支援
点検項目	① 学修体制の整備のため、教員と職員等の間でどのような協働をしていますか。また、それを学内外に公表し周知していますか。
現状説明	共通教育に関しては大学教育センターと教務課、専門科目に対しては学部と工学部生命工学部事務室で協働しているが、その体制は公表されていない。
年度目標	工学部に係る学修体制整備のための教職協働体制が外部から分かるように工夫する。
年度報告	工学部の議事録や資料の形で、協働が一部可視化されている。
達成度	B
改善課題	工学部の協働体制の外部公開
根拠資料	①工学部教授会資料・議事録 ②評議会資料・議事録
次年度の課題と改善の方策	協働体制の外部公開を検討する。
点検項目	② 学修支援の充実のために、TA(Teaching Assistant)等を有効に活用していますか。
現状説明	建築学科、情報工学科で活用しており、スマートシステム学科で活用を検討している。
年度目標	建築学科、情報工学科では、現状を維持し、スマートシステム学科では導入計画(予算計上)を実施する。
年度報告	建築学科、情報工学科では、現状を維持し、スマートシステム学科では予算計上を行った。SAも計上した。
達成度	A
改善課題	
根拠資料	①平成31年度予算要求書
次年度の課題と改善の方策	

中点検項目 2-3. キャリア支援	
点検項目	① 教育課程内外を通じて社会的・職業的自立に関するキャリア形成支援体制を整備していますか。
現状説明	キャリア科目の必修化と共に、BINGO OPEN INTERNSHIP 等、インターンシップの活用が活発化している。
年度目標	前年度のインターンシップ利用者が減少したため、今年度は積極的な参加を呼び掛ける。
年度報告	大学全体としては参加者が増えた。工学部も参加者が向上した。
達成度	S
改善課題	
根拠資料	①第6回大学教育センター運営委員会資料
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	② 卒業生の進路に関する過去3年間に亘る資料を収集し、検証していますか。
現状説明	学科主導で収集し、検証すると共に、その結果を学部で把握している。
年度目標	現状を維持する。
年度報告	現状を維持した。
達成度	A
改善課題	
根拠資料	①H29自己点検書(工学部)-報告 ②進路報告書(就職委員会)
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	③ 資格取得やインターンシップを支援する体制を整備していますか。
現状説明	全学的に資格取得支援センター、キャリア形成支援委員会、自分未来創造室を中心として整備されている。
年度目標	現状を維持する。
年度報告	現状を維持した。
達成度	A
改善課題	
根拠資料	①大学HP ②2018年学生便覧 ③資格取得支援センター議事録 ④大教セ運営委員会議事録
次年度の課題と改善の方策	

点検項目	④ 就職指導を適切に行い、就職の質及び内定率の向上に取組んでいますか。
現状説明	各学科の就職委員を中心に、就職委員会、就職課と連携し内定率の向上に取り組み、高い就職率を維持している。
年度目標	現状を維持する。
年度報告	現状を維持した。
達成度	A
改善課題	
根拠資料	①各学科教室会議議事録 ②全学教授会資料(就職内定状況)
次年度の課題と改善の方策	

2018年度

工学部

中点検項目	2-4. 学生サービス
点検項目	① 学生生活の継続のための経済的支援は実施されていますか。
現状説明	学部主導の直接的な経済的支援は実施していない。
年度目標	係る目的での学部主導の経済支援とは何かを協議する。
年度報告	学部主導の間接的な経済支援として、TA、SA制度を充実させた。
達成度	S
改善課題	
根拠資料	①平成31年度予算申請書
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	② 種々のハラスメントの発生防止に取組んでいますか。
現状説明	学部から2名のハラスメント対応委員を選出すると共に、相談員として常駐し発生防止に取り組んでいる。
年度目標	現状を維持する。
年度報告	現状を維持した。
達成度	A
改善課題	
根拠資料	①平成31(2019)年度福山大学諸委員会構成員名簿
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	③ 課外活動(サークル活動、留学等の国際交流、社会貢献活動を含む)の活性化のために、どのような取組みを行っていますか。
現状説明	学科横断型授業から課外活動が発生する仕組みを作り、かつ、その活動を公開することで学生の参加を促している。
年度目標	現状を維持する。

年度報告	日本・アジアサイエンス交流事業への協力や、学内教育助成の支援も受け、ETロボコン参戦、アプリコンテスト、EVカーレース入賞等の成果も出た。
達成度	S
改善課題	課外活動への参加率の向上
根拠資料	①学生便覧 ②大学ホームページ ③さくらサイエンスプランHP ④学長室ブログ ⑤助成金成果報告書
次年度の課題と改善の方策	課外活動への参加率の向上を図る。

2018年度

工学部

中点検項目	2-5. 学修環境の整備
点検項目	① 校地、校舎等の学修環境の整備と適切な運営・管理をどのように実施していますか。
現状説明	学部の施設設備の整備と運用を改善するWGを立ち上げ、予算申請に向けて協議している。
年度目標	現状を維持する。
年度報告	WGで協議を行い、ICT利用環境の整備についての骨子が出来上がった。
達成度	S
改善課題	
根拠資料	①工学部「デジタルイノベーションプログラム教育拠点」整備構想 ②第5回工学部教授会議事録
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	② ICT教室、実習・実験施設、図書館等を活用していますか。
現状説明	ICT教室、実習・実験施設は積極的に活用しているが、図書館(ラーニングコモンズ)の利用度は低い。
年度目標	図書館活動に学生が目を向ける工夫をする。
年度報告	図書館委員会において利用者増のためのさまざまな施策が行われているが、工学部の利用率が低い。
達成度	B
改善課題	図書館行事の工学学生への周知
根拠資料	①第8回図書館運営委員会資料
次年度の課題と改善の方策	図書館行事への工学部学生への周知
点検項目	③ 施設・整備のバリアフリー化やアメニティースペースの確保など、学生の利便性を高めるために、どのように取組んでいますか。
現状説明	施設設備整備のWGを中心に施設調査を実施し、不備や希望がある部分は改善の申請を行っている。
年度目標	現状を維持する。

年度報告	現状を維持した。
達成度	A
改善課題	
根拠資料	①卒業生アンケート
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	④ 授業を行う学生数等を考慮した適切な施設・設備上の管理をしていますか。
現状説明	授業評価アンケートの結果等の学生からの意見や、教員からの要望に対応して管理を行っている。
年度目標	現状を維持する。
年度報告	現状を維持した。
達成度	A
改善課題	
根拠資料	①授業評価アンケート結果 ②卒業生アンケート結果・在学生アンケート結果 ③H31年度予算要求書
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	⑤ 施設・設備の管理において、防災・防火の観点から整備点検を行っていますか。
現状説明	各学科を主体として、常に安全に気を配り、不備がある場合は直ちに改善している。しかしながら、点検記録は無い。
年度目標	定期的な点検の実施と記録保持を検討する。
年度報告	安全の手引きに従い、整備点検を行っている。全学の安否確認訓練が実施され、その中で工学部の安否確認結果が把握されている。その他については法律に定められた定期点検の必要な機器の点検費用支出手続き以外は記録の保持に至っていない。
達成度	B
改善課題	学部レベルでの総点検の実施と記録保持
根拠資料	①全学教授会資料 ②物品購入原義書 ③第6回工学部教授会議事録
次年度の課題と改善の方策	学部レベルでの総点検を実施する。
点検項目	⑥ 施設内に保管している劇物・危険物の管理において、安全管理の観点から管理システムを整備していますか。
現状説明	全学的な管理ルールは整いつつあるが、学部内での管理システムは確立していない。
年度目標	全学に連携する形で学部内の安全管理システムを確立する。
年度報告	学科長等連絡会議において安全管理システムに関する議論が行われた。
達成度	B

改善課題	工学部内の安全管理システムの確立
根拠資料	①第19回工学部教授会議事録
次年度の課題と改善の方策	工学部の安全管理システムを確立し、マニュアルを作成する。
点検項目	⑦ 学生及び教職員の安全確保のために、各部署に適切な安全管理教育の実施、災害時避難マニュアルの作成及び防災訓練等を実施していますか。
現状説明	全学的な安全の手引きは整い、全学的な防災訓練は実施されているが、学部主導では行われていない。
年度目標	学部主導の防災訓練を計画する。
年度報告	全学の防災訓練の安否確認訓練の中で学部内の各学科の状況が把握された。
達成度	B
改善課題	防災訓練の実施
根拠資料	①全学教授会資料 ②物品購入原義書 ③全学安全管理マニュアル
次年度の課題と改善の方策	防災訓練を実施する。

2018年度

工学部

中点検項目	2-6. 学生の意見・要望への対応
点検項目	① 学修支援に関する学生の意見・要望を把握する体制やその分析と検討結果を活用する体制を整備していますか。
現状説明	授業評価アンケート、学科内の学生面談、大学教育センター主幹の共通教育アンケート、卒業生アンケート等で学生の意見・要望を把握する努力をしており、それらがある場合は反映させることを心がけている。
年度目標	現状を維持する。
年度報告	現状が維持された。
達成度	A
改善課題	
根拠資料	①授業評価アンケート結果 ②卒業生アンケート結果・在学生アンケート結果 ③H31年度予算要求書
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	② 心身に関する健康相談、経済的支援をはじめとする学生生活に関する学生の意見・要望を把握する体制やその分析と検討結果を活用する体制を整備していますか。
現状説明	心身に関することは保健管理センターの集計記録に頼っているが、経済的支援に関するサポートはできていない。
年度目標	保健管理センターの健康相談の工学部利用率が低い。保健管理センターの活動に学生の関心が向くようにする。
年度報告	年度初めの工学部教授会において、教員に、年度計画説明の中で示された。また、結果を年度末の学部教授会で提示した。

達成度	B
改善課題	保健管理センター活動の学生への展開協力
根拠資料	①第1回工学部教授会資料・議事録 ②第20回工学部教授会資料・議事録 ③第12回評議会資料・議事録
次年度の課題と改善の方策	保健管理センター活動内容の展開に協力する。
点検項目	③ 学修環境に関する学生の意見・要望を把握する体制やその分析と検討結果を活用する体制が整備されていますか。
現状説明	授業評価アンケート、卒業生アンケートが情報源となっており、環境整備の参考として用いている。
年度目標	現状を維持する。
年度報告	学科主体としての分析に留まっている。
達成度	B
改善課題	学部全体としての卒業生アンケートの分析
根拠資料	①卒業生アンケート結果 ②授業評価アンケート結果
次年度の課題と改善の方策	学部としての分析を実施し、FDを通じて情報共有を図る。

2018年度

工学部

基準3. 教育課程

領域：卒業認定、教育課程、学修成果

2018年度

工学部

中長期計画	学部が掲げているディプロマポリシーの正当性、そこに至るまでのアドミッションポリシー、カリキュラムポリシーの妥当性を毎年検証するために、学部のアセスメントポリシーの精度を向上させ、学修成果が可視化できるようにする。
-------	--

2018年度

工学部

中点検項目	3-1. 単位認定、卒業認定、修了認定
点検項目	① 教育目的を踏まえたディプロマ・ポリシーは、学内外に周知されていますか。
現状説明	ホームページ、学生案内、オープンキャンパス、出張講義、学生便覧、オリエンテーションで周知の努力をしている。
年度目標	現状を維持する。
年度報告	現状を維持した。
達成度	A
改善課題	
根拠資料	①大学のホームページ ②学生便覧
次年度の課題と改善の方策	

点検項目	② ディプロマ・ポリシーを踏まえた単位認定基準、進級基準、卒業認定基準、修了認定基準(ループリック等の評価指標を含む)等の策定はどのように行われ、学内外に周知していますか。
現状説明	各学科で策定した結果を学部教務委員会で調整し、工学部教授会で承認し、シラバス、学生便覧の形で公開されている。
年度目標	現状を維持する。
年度報告	現状を維持した。
達成度	A
改善課題	
根拠資料	①教務委員会資料・議事録 ②工学部教授会議事録 ③シラバス
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	③ 単位認定基準、進級基準、卒業認定基準、修了認定基準等を公表し、厳正に適用されていますか。
現状説明	学内外に対しては、シラバスをWebで公開している。各基準に照らし合わせた判定は学科、学部、全学のそれぞれの教授会で諮り、厳正に適用している。
年度目標	現状を維持する。
年度報告	現状を維持した。
達成度	A
改善課題	
根拠資料	①シラバス ②教務委員会シラバスチェック ③第19回工学部教授会議事録
次年度の課題と改善の方策	

2018年度

工学部

中点検項目	3-2. 教育課程及び教授方法
点検項目	① カリキュラム・ポリシーを策定し、学内外に周知していますか。
現状説明	カリキュラム・ポリシーを策定し、学内には学生便覧、学外へはHP、広報では大学案内に明記し周知している。
年度目標	現状を維持する。
年度報告	現状を維持した。
達成度	A
改善課題	
根拠資料	①学生便覧 ②大学ホームページ ③大学案内

次年度の課題と改善の方策	
点検項目	② カリキュラム・ポリシーとディプロマ・ポリシーとの間に一貫性がありますか。
現状説明	ディプロマ・ポリシーを経てカリキュラム・ポリシーを策定しているため一貫性は保たれている。
年度目標	現状を維持する。
年度報告	現状を維持した。
達成度	A
改善課題	
根拠資料	①大学HP ②学生便覧
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	③ カリキュラム・ポリシーに沿った教育課程を体系的に編成していますか。
現状説明	カリキュラム・ポリシーを通じて、工学部としての共通教育と専門教育の連携を謳い、実現している。
年度目標	現状を維持する。
年度報告	現状を維持した。
達成度	A
改善課題	
根拠資料	①学生便覧
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	④ 教養教育は専門教育とともに十分に実施されていますか。
現状説明	カリキュラム・ポリシー、カリキュラムマップにも専門教育との連動、必要性を明示し、十分に実施している。
年度目標	現状を維持する。
年度報告	現状を維持した。
達成度	A
改善課題	
根拠資料	①学生便覧
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	⑤ 教授方法を工夫・開発(ICTの活用を含む)し、効果的に実施していますか。
現状説明	みらい工学PJ、社会安全工学教育の学科連携のカリキュラムを設定し、効果を検証しつつ継続している。
年度目標	現状を維持する。

年度報告	現状を維持した。
達成度	A
改善課題	
根拠資料	①シラバス ②各学科の授業評価アンケート報告
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	⑥ディプロマポリシーと卒業判定の整合性を考えていますか。
現状説明	ディプロマ・ポリシーをベースにして、卒業研究のループリック評価をする等、整合性を考慮する努力を続けている。
年度目標	現状を維持する。
年度報告	現状を維持した。アセスメントポリシーによる評価の試行を実施した。
達成度	S
改善課題	
根拠資料	①第5回大学教育センター運営委員会資料・議事録 ②第7回評議会資料
次年度の課題と改善の方策	

2018年度

工学部

中点検項目	3-3. 学修成果の点検・評価
点検項目	① 全学及び各学科等のアセスメントポリシーの活用も含め、三つのポリシーを踏まえた学修成果の点検・評価方法の確立とその運用をどのように検証していますか。
現状説明	アセスメント表によるレーダチャート評価を積極的に活用し、評価する準備を始めている。
年度目標	現状を維持する。
年度報告	アセスメント表によるレーダチャートが作成され、各学科で評価が行われた。
達成度	S
改善課題	
根拠資料	①大学教育センター運営委員会資料 ②第7回評議会資料 ③第10回工学部教授会議事録
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	② 教育内容・方法及び学修指導等の改善へ向けての学修成果の点検・評価結果のフィードバックはどのように実施されていますか。学修成果の点検・評価結果を教育内容・方法及び学修指導等の改善につなげていますか。
現状説明	基本的には各学科主導で実施しているが、学部として総括が必要な場合は学部教授会で改善を協議している。
年度目標	現状を維持する。
年度報告	現状を維持した。

達成度	A
改善課題	
根拠資料	①授業評価アンケートのフィードバック報告書 ②授業評価アンケート結果に基づく学科報告書
次年度の課題と改善の方策	

2018年度

工学部

基準4. 教員・職員

領域：教学マネジメント、教員・職員配置、研修、研究支援

2018年度

工学部

中長期計画	全学的な教学IRのデータを教学マネジメントに活かし、教員配置や研究支援を進めるマネジメント体制を確立し、社会のニーズや国家の方針をキャッチアップし続けるためのFD研修を定期的に開催し、工学部を専門職大学とは一線を画した、企画力やアントレプレナー養成力を有する備後圏域の産業界に於いて、必要不可欠な教育研究機関にする。
-------	--

2018年度

工学部

中点検項目	4-1. 教学マネジメントの機能性
点検項目	① 大学の意思決定と教学マネジメントにおける学長の適切なリーダーシップが確立され、それが発揮されていますか。当該部署の長は当該部署の教学マネジメントにおいて適切にリーダーシップを発揮していますか。
現状説明	学長、学部長のガバナンス、リーダーシップは発揮されている。
年度目標	現状を維持する。
年度報告	現状を維持した。
達成度	A
改善課題	
根拠資料	①工学部教授会議事録
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	② 当該部署では、教職員間で権限・役割を適切に分散し、かつそれぞれの責任を明確化した教学マネジメントを実施していますか。
現状説明	工学部規則に基づき、学部長・学科長が、学長ガバナンスの下に大学の管理運営を遂行するための職責を明らかにしマネジメントしている。また、改善の必要性があるときには学科長等連絡会議で審議して対応している。
年度目標	現状を維持する。
年度報告	現状を維持した。
達成度	A
改善課題	
根拠資料	①第19回工学部教授会議事録
次年度の課題と改善の方策	

点検項目	③ 職員の配置と役割の明確化などにより、教学マネージメントの機能性を高めていますか。
現状説明	明確とは言えない。寧ろ伝統的に無償の互助の精神が重んじられており、機能性を低める場合が多い。
年度目標	可能な限りペーパーレス、データベース化に近づけ、属人化を脱却する努力をする。
年度報告	Office365, Karin のデータベースへのデータ集積を行った。
達成度	A
改善課題	
根拠資料	①Office365 の工学部のドキュメント ②Karinの工学部のドキュメント
次年度の課題と改善の方策	

2018年度

工学部

中点検項目	4-2. 教員の配置・職能開発等
点検項目	① 当該部署の教育目的及び教育課程に即した資質を有する教員を配置していますか。また、当該部署の適切な運営及び継続性を担保する構成(性別、年齢、職階等)となっていますか。
現状説明	教育目的、教育課程に則した教員配置をしているが、性別、年齢等のダイバーシチ化に配慮する余裕が無い。
年度目標	年齢構成の若年化、女性教員の登用の可能な人事トライアルを計画する。
年度報告	女性教員登用を含む人事計画を行った。
達成度	A
改善課題	
根拠資料	①平成30年度自己点検書式(計画)
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	② 大学設置基準、教職課程等の資格養成機関に求められる教員数を確保していますか。
現状説明	教員数は確保している。
年度目標	現状を維持する。
年度報告	現状を維持した。
達成度	A
改善課題	
根拠資料	①評議会資料 ②大学HP教員データベース
次年度の課題と改善の方策	

点検項目	③ FD(Faculty Development; 教育内容・方法等の改善)をはじめとする教員の資質向上に向けた取組みを行っていますか。
現状説明	大学主催に加えて、学部、学科主催のFDも年度間複数回開催されている。
年度目標	現状を維持する。
年度報告	現状を維持した。
達成度	A
改善課題	
根拠資料	①第12回工学部教授会議事録 ②工学部第1回FD研修会報告書 ③第20回工学部教授会議事録 ④工学部第2階FD研修会報告書
次年度の課題と改善の方策	

2018年度

工学部

中点検項目	4-3. 職員の研修
点検項目	① SD(Staff Development; 教職員の個々の職能開発)をはじめとする大学運営に関わる教職員の資質・能力向上と教職協働への取り組みを実施していますか。
現状説明	学部の教学組織が関与する職員(技術職員)は、教員と共にFD研修を受けている。
年度目標	現状を維持する。
年度報告	現状を維持した。
達成度	A
改善課題	
根拠資料	①第12回工学部教授会議事録 ②工学部第1回FD研修会報告書 ③第20回工学部教授会議事録
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	② 大学運営の効率改善のために ICTの活用を推進していますか。
現状説明	OFFICE365の活用を推進している。
年度目標	現状を維持する。
年度報告	現状を維持した。
達成度	A
改善課題	
根拠資料	①Office365 の工学部のドキュメント ②Karinの工学部のドキュメント
次年度の課題と改善の方策	

中点検項目 4-4. 研究支援	
点検項目	① 研究に専念する時間の確保、研究室の施設設備の整備等の研究環境を適切に管理していますか。
現状説明	学部として、施設設備の管理には留意しているが、研究時間の確保の管理には至っていない。
年度目標	Office365を用いて効率化できる事務仕事の抽出作業を行う。
年度報告	徐々にOffice365の利用が増えている。また、デジタルモノづくりを推進した。
達成度	S
改善課題	
根拠資料	①Office365の工学部のフォルダ ②Karinの工学部のフォルダ ③備後経済レポート記事(10.20、11.20、12.20、01.20、02.20、03.20)
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	② 研究倫理の確立(規則の整備や検査等)と厳正な運用が行われていますか。
現状説明	研究倫理に関する規則は整備され点検されている。また、研究倫理の研修会も厳密に実施している。
年度目標	現状を維持する。
年度報告	現状を維持した。
達成度	A
改善課題	
根拠資料	①第3回工学部教授会議事録 ②工学部研究倫理コンプライアンス研修実施報告書
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	③ 研究活動への資源の配分や運用は適正に行われていますか。
現状説明	研究予算に関しては学部内合議に基づき、また、個人研究費は学部で承認された個人業績に基づき分配され、事務員に管理され適正に運用されている。
年度目標	現状を維持する。
年度報告	現状を維持した。
達成度	A
改善課題	
根拠資料	①教員の自己評価に基づく個人研究費、ならびに、出張費申請書
次年度の課題と改善の方策	

点検項目	④ 公的研究費の運営・管理(ガイドライン等)が整備され、周知されていますか
現状説明	公的研究費に関する、ガイドラインは整備され、コンプライアンス教育が厳格に実施されている。
年度目標	現状を維持する。
年度報告	現状を維持した。
達成度	A
改善課題	
根拠資料	①第3回工学部教授会議事録 ②工学部研究倫理コンプライアンス研修実施報告書
次年度の課題と改善の方策	

2018年度

工学部

基準6. 内部質保証

領域：組織体制、自己点検・評価、PDCAサイクル

2018年度

工学部

中長期計画	工学部自己点検評価委員会主導のもとで、工学部教授会の議を経て自己点検及び、年度計画の策定を毎年実施する。また、概ね4年に一度、自己点検評価結果に基づき、外部評価を実施して教育、研究等組織としての質が保証し続ける。
-------	--

2018年度

工学部

中点検項目	6-1. 内部質保証の組織体制
点検項目	① 内部質保証のための組織を整備し、責任体制を確立していますか。
現状説明	工学部自己点検評価委員会を組織し、学部教授会の議を経て学部長の責任の下で改善を執行する体制を確立している。
年度目標	現状を維持する。
年度報告	現状を維持した。
達成度	A
改善課題	
根拠資料	①第20回工学部教授会議事録 ②平成30年度工学部自己点検評価委員会議事録
次年度の課題と改善の方策	

2018年度

工学部

中点検項目	6-2. 内部質保証のための自己点検・評価
点検項目	① 内部質保証のための自主的・自律的な自己点検・評価が実施され、その結果を当該部署の教職員が共有していますか。
現状説明	工学部自己点検評価委員会での評価結果は、学部教授会で諮られ教職員間で共有されている。
年度目標	現状を維持する。

年度報告	現状を維持した。
達成度	A
改善課題	
根拠資料	①第1回工学部教授会資料 ②第20回工学部教授会資料 ③自己点検評価書(H30報告書)
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	② IR(Institutional Research)等を活用した十分な調査・データの収集と分析を行っていますか。また、その結果を改善に活かしていますか。
現状説明	データの蓄積段階であり、現状では充分に活用できていない。
年度目標	分析、活用の試行を行う。
年度報告	各学科で成績分析を行ったが、学部での集約には至っていない。
達成度	B
改善課題	学部での総括を行う。
根拠資料	
次年度の課題と改善の方策	学科長等連絡会議で利用に関する議論をはじめ、成績分布など比較的取組みやすいデータ分析から実施する。

2018年度

工学部

中点検項目	6-3. 内部質保証の機能性
点検項目	① 内部質保証のための学部、学科、研究科等と大学全体のPDCAサイクルの仕組み(システム)をどのように確立し、その機能性を検証していますか。
現状説明	各学科の自己点検評価を学部自己点検評価委員会で総括する際に、システムの機能性も検証している。
年度目標	現状を維持する。
年度報告	現状を維持する。
達成度	A
改善課題	
根拠資料	①第1回工学部教授会 ②第2回工学部FD実施報告
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	② 教職員のコンプライアンスを確立するための体制を整備していますか。
現状説明	福山大学学術倫理審査委員会があり、工学部では学部長の下、コンプライアンス教育研修会が厳格に行われている。
年度目標	現状を維持する。
年度報告	現状を維持した。

達成度	A
改善課題	
根拠資料	①第3回工学部教授会議事録 ②工学部研究倫理コンプライアンス研修実施報告書
次年度の課題と改善の方策	

2018年度

工学部

基準7. 福山大学ブランディング戦略

領域：本学独自基準と点検・評価

2018年度

工学部

中長期計画	福山大学ブランディング戦略として掲げるテーマである「瀬戸内の里山・里海学」における、「瀬戸内」という素材を活かし、「工学」の定義である「人に役立つ事物や環境を構築する学問」を具現化するための研究・教育プロジェクトを有機的に興し、推進し、成果を明らかにすることで、福山大学工学部の使命(個性)を明確にする。
-------	--

2018年度

工学部

中点検項目	7-1. 福山大学ブランディング戦略の推進
点検項目	① 福山大学ブランディング戦略 (ver. 2018) の概略について当該部署の学生及び教職員への周知を進めていますか。
現状説明	教職員への周知の努力は行われているが、学生に対しては不十分である。
年度目標	学生に対する周知の努力をする。
年度報告	新入生に対する説明を行った。学生も交えた本学ブランディング戦略に関する工学部の関わる研究が、6件行われた。
達成度	S
改善課題	
根拠資料	①みらい工学PJ説明会の学長室ブログ記事 ②社会連携センター福山大学研究成果報告書 ③2019年3月13日の大学院FD
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	② 福山大学はブランディングを「広告ではなく、社会に貢献する観点から他にはない固有の魅力を引き出して他との区別化を図り、社会から選ばれること」と捉えています。この観点からブランディングにどのように取組んでいますか。
現状説明	備後圏域の特徴を再認識できるビジョンを作り、そこから、研究テーマ、地域連携テーマを設定する努力をしている。
年度目標	現状を維持する。
年度報告	現状を維持した。
達成度	A
改善課題	

根拠資料	①福山市先端街づくり官民協議会議事録 ②A-step申請書
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	③ 福山大学ブランディング戦略では「備後地域の産学官民連携を推進し、地域の教育資源を最大限に活用して人間性を高め、地域を愛し、地域で活躍し、地域から国際社会につながる『未来創造人』を育成すること」を方針としています。当該部署は、この方針の実現にどのように取組んでいますか。
現状説明	福山市、福山商工会議所、広島県東部産業支援課、ひろしま産業振興機構、備後地域地場産業振興センター、地域企業団体、優良NPO法人等と共同研究、協働活動契約を結び事業を展開している。
年度目標	現状を維持する。
年度報告	現状を維持した。
達成度	A
改善課題	
根拠資料	①協働事業契約申請書(香川教授-福山市 IoT/AIワークショップ開催他) ②各事業報告書(安全安心防災教育センター活動報告書(発行予定)など)
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	④ 福山大学ブランディング戦略では、福山大学が備後地域の知の拠点として地域と共に育ち、地域創生に貢献することを目標としています。この目標の実現に向けて、どのように取組をし、その成果をどのように検証していますか。
現状説明	福山圏域住民や企業に対する教育研修事業である福山市ものづくり大学に積極的に参画する等地域への影響力と知名度を高めており、当該主催機関である福山市による事業評価を参考に効果の検証を行っている。
年度目標	現状を維持する。
年度報告	現状を維持した。
達成度	A
改善課題	
根拠資料	①備後圏域活性化戦略会議資料 ②びんご圏域活性化戦略会議地域経済活性化研究部会 ものづくりワーキング議事録
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	⑤ 福山大学ブランディング戦略では、建学の理念に基づき、「地域の中核となる幅広い職業人」を、育成する人材像としています。そのために、どのような取組をし、その成果をどのように検証していますか。
現状説明	福の耳プロジェクト、MBD研修等、OJTの要素を持つインターンシップ型の活動を実施し、学生の就業観を高める取組みを推進している。その成果は、卒業、修了生の就職先で検証している。
年度目標	現状を維持する。
年度報告	現状を維持した。

達成度	A
改善課題	
根拠資料	①各事業に対する実施依頼状 ②卒業生アンケート ③企業アンケート
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	⑥ 福山大学プランディング戦略が掲げる「備後地域との密な連携のもとに進める教育研究」としてどのような取組をし、その成果をどのように検証していますか。
現状説明	福山市ものづくり大学、MBD研修、いぐさプロジェクト、製材工場の環境改善研究等、工学部が管轄できる備後圏域の地域性を活かした各種活動を展開している。進行中の研究テーマ群であるため成果の検証法については検討中である。
年度目標	成果の検証法を検討する。
年度報告	多くの取り組みが実施できるに至っているが、それらの成果の具体的な手法は見いだせていない。
達成度	B
改善課題	研究成果の検証法
根拠資料	
次年度の課題と改善の方策	研究成果の検証手法を検討する。
点検項目	⑦ 福山大学プランディング戦略が掲げる「学問にのみ偏重しない全人教育」としてどのような取組をし、その成果をどのように検証していますか。
現状説明	福山市、地域のNPO法人等が実施する各種イベントに於いて、市民とのふれあい、市民への教授など学生のホスピタリティの醸成に寄与する活動に積極的に参加する機会を設けている。その成果は、直接的に調査できていないが、学生の参加率に反映している。
年度目標	成果の直接的な検証法を検討する。
年度報告	多くのイベントに積極的に参加する学生が増えたが、直接的な検証法は見いだせていない。
達成度	B
改善課題	学生に対する成果の調査
根拠資料	
次年度の課題と改善の方策	各種イベントに参加した学生の所見を得る調査を実施する。

2018年度

工学部

中点検項目	7-2. 福山大学プランディング推進のための研究プロジェクト
点検項目	① 当該部署では全学的に展開しているプロジェクト研究の「瀬戸内の里山・里海学」にどのように取組んでいますか。
現状説明	工学部教員が関わる研究テーマとして、「地域遺産」の理念構築とその保全・継承に関する研究、里山の災害対策のためのIoTシステムに関する研究、住みよいまちづくりを支援するプライベート音空間を使用した革新的介護システムの構築、が掲げられている。
年度目標	計画に沿って研究を推進する。
年度報告	積極的に研究を推進した。

達成度	S
改善課題	
根拠資料	①安全安心防災教育研究センター研究成果報告書
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	② 福山大学ブランディング研究に必要な内部資金及び外部資金をどのように獲得していますか。
現状説明	文部科学省ブランディング補助金の採択があり、一部は賄われるが、それ以外は外部資金獲得のための継続的な努力をする。
年度目標	計画に沿って予算を執行する。
年度報告	新規外部資金獲得の努力は続けた。
達成度	S
改善課題	
根拠資料	①A-Step申請書 ②国土交通省受託研究
次年度の課題と改善の方策	
点検項目	③ 福山大学ブランディング研究の成果をどのように社会に発表していますか。
現状説明	福山大学研究成果発表会、学会発表、報道発表で行っている。
年度目標	現状を維持する。
年度報告	現状を維持した。
達成度	A
改善課題	
根拠資料	①福山大学研究成果報告書 ②備後じばさんフェア申請書 ③学会発表資料 ④報道発表記事
次年度の課題と改善の方策	